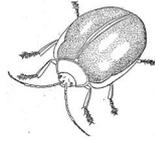


たんぽう



庭でヒラズゲンセイを発見

清水 颯太

2016年6月5日の雨上がりの午後に、庭で三尺バーベナの茎にしがみついているヒラズゲンセイの♂を発見しました(写真)。つやつやで鮮やかな赤い体に大きなあごがあって、まるでクワガタみたいでした。



図鑑にはあまり詳しく書いてなかったので、パソコンで調べてみると、ヒラズゲンセイの体液は毒があり触るとかぶれたりすることや、クマバチの巣の近くにいることが多いと書いてありました。そこで、庭のどこかにクマバチの巣があるのではないかと探してみましたが見つかりませんでした。

ぼくは、ヒラズゲンセイをもっと知りたくて飼って観察してみることにしました。何を食べるのかわからなかったのですが、まず昆虫ゼリーをやってみました。大きなあごでザクザクと挟んだりしているだけで食べませんでした。次にミールワームも試してみましたが、これは見向きもしませんでした。最後に水で湿らせた脱脂綿と三尺バーベナの茎を入れてみました。すると、どちらも大あごでザクザクと挟んでいる様子で、もしかしたら水分をとっているのかもしれないと思いました。

いろいろと試してみたけれど、結局、ヒラズゲンセイは何も食べませんでした。そして、ほとんど動かずにじっとしていることが多かったです。昼間でも夜でも静かでおとなしい昆虫だということがわかりましたが、それ以外は謎のまま、1ヶ月後に死んでしまいました。

また、庭にヒラズゲンセイが来てくれるのを楽しみにしています。

(Sōta SHIMIZU 神戸市立塩屋北小学校3年生)

ヒゴトゲハムシの越冬個体の採集例

篠原 忠

ヒゴトゲハムシ *Dactylispa higoniae* (Lewis) はムラサキシキブ類を宿主とし、国内では本州、四国、九州に分布するハムシである(木元・滝沢, 1994)。本属のハムシは成虫越冬することが知られているが、本種の冬季の採集例は少ない。

筆者は六甲山系東部においてリョウブの樹皮下で越冬する本種を採集したので報告する。



1ex. 2. I. 2013, 兵庫県西宮市越水社家郷山, 社家郷山産ヒゴトゲハムシ。

採集地周辺にはムラサキシキブが生育しており、冬季以外でも本種が見られた。

○参考文献

木元新作・滝沢春雄, 1994. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 東海大学出版会, 539pp.

(Tadashi SHINOHARA
神戸大学大学院人間発達環境学研究所)